

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3270500303
法人名	有限会社 百年くらぶ
事業所名	グループホーム七色館
所在地 (電話番号)	大田市大田町大田イ376-1 (電話) 0854-84-0200

評価機関名	財団法人 出雲市ひらた福祉公社		
所在地	島根県出雲市平田町2112-1 平田福祉館2階		
訪問調査日	平成21年1月8日	評価確定日	平成21年3月12日

【情報提供票より】(20年12月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	16 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 10.5 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	RC 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,270 円			

(4) 利用者の概要(12月19日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	6 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.9 歳	最低	76 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大田市立病院、中崎医院、大田呼吸循環クリニック、秦歯科医院、加藤
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは市の中心地にあり、レンガ張りの洒落た2階建ての建物である。ホーム周囲の環境は静かであり、三瓶山も見ることができる。チップボイラーによる給湯装置や床暖房システムも整備するなど、住環境に対する配慮もなされている。地元の祭りへの利用者も含めた参加、地元公民館や保育園、小学校などの行事参加、また数年前よりホームで祭りを開催し、地区住民を招聘するなど地域との関わりは深く、ホームでの行事参加のポスターを地元の利用者と一緒にポスティングするなど、地域啓発への取り組みも積極的である。外部研修の復命(報告)研修に加え、事業所内でも毎月研修を開催しており、他の事業所と連携し、2~3ヶ月毎に認知症ケアに的を絞った研修なども行っている。また、利用者個々のアセスメントを通して、得意なことややりたいことを日々の生活の中に取り入れることで、利用者一人ひとりがホーム内で自分の役割を持った生活を見ることができた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善を求められた項目については改善に向けての積極的な対応がなされており、加えて、指摘がなかった項目に関しても、自己評価や外部評価を通して、より利用者本位のサービス提供、より良い質の確保を目指した取り組みがなされており、その成果もうかがい知ることができる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者、職員共に評価の意義を十分に理解しており、全職員で自己評価を行い、これを基とし、さらにホームの質の向上に取り組もうとする姿勢が窺えた。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>利用者、家族、正副自治会長、民生委員、市の職員、役職員数名のメンバーで、定期的開催されている。ホームの現状を報告し、会議で提案のあった事項等に関しては、ホームで取り組みが図られ、その経過を会議にフィードバックするなど、この会議を活かし、ホームの質の向上に向けての取り組みが見られる。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月利用者個々の担当者から、活動の写真を付け生活状況を記した(利用者個別の)ホーム便りが作成され渡されている。加えて、家族の来訪時等を利用してケア方法の変更、日々の暮らしぶりなど個々に合わせ報告が行われている。家族の面会時や家族会などで、話す時間をできる限り設け、家族からできる限り意見や要望を聞くようにしており、出された意見や要望は、ミーティングで話し合い、ケアや業務に反映するよう取り組んでいる。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>2つの自治会に加盟しており、地域で開催されるお祭りや運動会といったイベントへは、利用者とともに積極的に参加している。また、近隣の保育園や小学校との交流も盛んである。上記【概要】に記載したとおり、地域との連携に関しては、高く評価できる。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から、地域に根付くことに重点をおいた事業展開を行っており、法人の理念を基に、その理念の具現化に向けての話し合いを全職員で行い、ホーム独自の理念が策定されており、地域に密着したホームとしてのケア提供がなされている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員で話し合いを行い策定した理念であり、職員のヒアリングからも、理念を自分たちで実現しようと前向きな発言が聞かれた。また、共有化に向けた取り組みが行われているとともに、理念の具現化に向けたケア提供の仕組みができていくことが確認できた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域で開催されるお祭りや運動会といったイベントへは、利用者とともに積極的に参加している。また、近隣の保育園や小学校との交流も盛んである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員ともに、評価の意義は理解しており、全職員で自己評価を行い、より利用者本位のサービス提供を目指している。前回の外部評価で指摘があった事項はもとより、それ以外の事項に関しても、自己評価及び外部評価を通して、より一層の質の向上を求め積極的に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、正副自治会長、民生委員、市の職員、役職員数名のメンバーで、定期的開催されている。ホームの現状を報告し、会議で提案のあった事項等に関しては、ホームで取り組みが図られ、その経過を会議にフィードバックするなど、この会議を活かし、ホームの質の向上に向けての取り組みが見られる。		

島根県 グループホーム七色館

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議にも、市の担当職員の参加があり、必用時には管理者が市役所に出向き相談するなど、連携は図られている。 また、定期的に市の訪問相談員がホームに訪れており、利用者との交流も図られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月利用者個々の担当者から、活動の写真を付け生活状況を記した(利用者個別の)ホーム便りが作成され渡されている。加えて、家族の来訪時等を利用してケア方法の変更、日々の暮らしぶりなど個々に合わせ報告が行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や家族会などで、話す時間をできる限り設け、また、利用者個々に担当を決め意見や要望が出しやすい体制を作り、家族からできる限り意見や要望を聞くようにしており、出された意見や要望は、ミーティングで話し合い、ケアや業務に反映するよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、馴染みの関係の中でケアが提供されることの重要性を十分に理解し、各ユニットの職員も固定化し、顔なじみの職員でケア提供がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市のグループホーム部会の研修を始め、外部への研修にはできる限り多くの職員が参加するよう配慮がなされており、研修内容は復命研修や、文書回覧がなされている。また、新年度からは委員会も立ち上げる予定である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム部会にて、2事業所ずつでペアを組み、普段外部研修に参加できない職員を対象に、2～3ヶ月毎に認知症ケアの研修会を開催している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	隣接するシニアホテルや認知症デイサービス、小規模多機能事業所の利用、ホームの見学やお試し利用等を通して、馴染みの関係をつくった上でサービスを開始する体制が取られており、隣接事業所からの入居の利用者には、職員が随時面会に訪れている。また、担当する職員が自宅を訪れ顔見知りになるよう配慮がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や洗濯、掃除といった日常の家事、また畑仕事や、釣りや山菜取り、干し柿作りといった季節ごとの活動を利用者が主体となるような視点で支援がなされており、職員が利用者から教わることも多い。評価に値する項目である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや望まれる生活を聴き、意向に添うように努めている。 本人の意向把握が困難な場合には、あくまで“利用者本位”に主眼を置き、家族から話を聞いたり、日々の生活の中での利用者の言動等を観察することで、意向を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族等については、日頃のかかわりの中で思いや意見、要望を聞き、介護計画に反映するようにしている。また、ミーティング等で出されたそれぞれの意見等を取り入れた介護計画作成がなされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画書の期間終了時(3ヶ月ごと)に加えて、状態が変化した時など、必要時には都度ケアカンファレンス実施し、課題ごとに検討・協議がなされており、モニタリングを通しての介護計画の見直し、策定を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設及び隣接する他の事業所との連携も図られており、病院受診の付き添いなど、それぞれの状況に合わせ支援されている。本人、家族等の状況に応じて、事業所内での医療に関わる緊急対応や通院支援、買い物や外出支援、送迎等、必要な支援には柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、入居前の主治医をそのままかかりつけ医とし支援している。受診に関しても家族の対応ができない場合は、ホームで対処し、結果の報告も行っている。主治医を変更しなければならない場合は、本人、家族と十分に協議がなされ、その意向に沿い決定されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期にケアについては、ホームとして出来ること出来ないことを、家族に伝え、必要時にはかかりつけ医も交え、本人や家族等の負担も含めターミナルケアについて話し合いがなされており、医療機関の協力を得、利用者が安心して終末期を迎え、過ごせるような取り組みがなされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員が意識統一を図り、利用者の尊厳に十分に配慮し、誇りの尊重やプライバシーの確保に視点を置いたケア提供が心掛けられており、日々のケア提供場面において、疑問や問題があると感じられた場合には、職員間で注意し合う仕組みが構築されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事とお茶の時間は概ね決まっているものの、利用者の体調等を見て、柔軟な対応がなされている。それ以外の時間は、それぞれの利用者で自由に過ごしている。外出の希望などにも個別対応がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や後片付けも利用者個々の能力に応じた対応がなされている。食事中も介助する側とされる側といった雰囲気はなく、利用者主体を念頭に置いており、雰囲気も和やかであったものの、食事のメニュー(副菜)が寂しい感を受け、食事メニューを話題の中心とし、会話を弾ませるといったケアがし難いと思われる。	○	食事は日常生活の中でも大きなウエイトを占める部分であり、また、調理・炊事等の役割りを得ることで、生きていることの喜びを味わえる機会でもある筈。“食事は文化”であると考えた時、協議と検討を重ね、メニューは当然のこととして、食事に関してより良い支援が提供されることが望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日の入浴や1日おきなど、利用者の希望に併せ実施されている。時間帯についても、夜間入浴も含めて本人の希望で入浴できる体制が整っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、利用者の得意なことを発揮できる場を作り、役割、楽しみ事の支援を行っている。また、昔からの地域行事に参加したり、行事外出や園芸等、楽しみごと、気晴らしの支援もなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の意向を踏まえたドライブ外出、近所への散歩等をはじめ、季節に応じた外出支援も実施されており、外出の機会が多い。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中施錠はされておらず、利用者や家族等も自由に入りができる。 外出傾向が強い利用者に対しては、決して制止するようなことはせず、職員が後から付き添い、様子を見て声掛けするような対応がされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回以上の避難訓練・消火訓練を利用者も含め行っている。運営推進会議を通して地域への協力依頼もなされ、訓練を行う際には、その内容が書いてあるチラシを近隣家庭に、利用者と職員でポスティングを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は個々にチェックし把握している。利用者それぞれのカロリー制限や咀嚼能力に合わせ柔軟に対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木材を多く用いた日本的で落ち着いた共用空間である。各所に季節の花も置かれており、壁飾りなどにも季節感が感じられる。空気のだよみや嫌な臭気もなく、テレビの音量など、利用者にとって快適であるよう心配りがなされている。調理の音や匂い、ゆず湯などといった、生活感や季節感に的を絞った気遣いもなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	「生活の継続性」を重視し、居室には写真や家庭で使用していた家具などが置かれ、生活用品を使いやすいように設置はしてあるものの、一部の利用者は馴染みの品を含めて生活備品が少ない。家庭的な雰囲気を有し、個々の利用者一人ひとりに合った、落ち着ける十分な居室環境作りまでには至っていないと感じられた。	○	居室は、利用者がホームで生活していく上での最も大切な空間。利用者によっては様々な事情も考えられるが、家族にも働きかけ、馴染みの品や使用していた物、家庭家具や生活用品が居室にあることで、利用者が落ち着け、「ここが自分の居場所」と感ずることができる、温かい家庭的な雰囲気を持った居室作りに向けての取り組みが望まれる。